

農業委員会掲示板

◆農地・農政部会で審議する申請書等の受付期間と部会審議日程のお知らせ◆
平成 27 年 10 月までの農地・農政部会の申請書受付期間並びに審議（部会開催）日程は、次のとおりです。
なお、部会審議日程は、変更になることがありますので、御了承願います。

		申請書受付期間	部会審議	証明書・許可書等の交付
1 月	農地部会	11 月 21 日 ～ 12 月 22 日	1 月 16 日	
	農政部会	11 月 26 日 ～ 12 月 25 日	1 月 21 日	
2 月	農地部会	12 月 24 日 ～ 1 月 20 日	2 月 12 日	通常、部会審議後 2 日から 4 日程度で交付します。
	農政部会	12 月 26 日 ～ 1 月 26 日	2 月 17 日	
3 月	農地部会	1 月 21 日 ～ 2 月 20 日	3 月 12 日	注 農地法第 4 条、第 5 条及び第 18 条の申請は、部会審議後に委員会の意見を添えて許可権者（京都府知事）に申請書類を送付し、改めて京都府で審査後に交付されます。
	農政部会	1 月 27 日 ～ 2 月 25 日	3 月 17 日	
4 月	農地部会	2 月 23 日 ～ 3 月 20 日	4 月 10 日	
	農政部会	2 月 26 日 ～ 3 月 25 日	4 月 15 日	
5 月	農地部会	3 月 23 日 ～ 4 月 20 日	5 月 14 日	
	農政部会	3 月 26 日 ～ 4 月 27 日	5 月 19 日	
6 月	農地部会	4 月 21 日 ～ 5 月 20 日	6 月 10 日	
	農政部会	4 月 28 日 ～ 5 月 25 日	6 月 16 日	
7 月	農地部会	5 月 21 日 ～ 6 月 22 日	7 月 10 日	
	農政部会	5 月 26 日 ～ 6 月 25 日	7 月 15 日	
8 月	農地部会	6 月 23 日 ～ 7 月 21 日	8 月 11 日	
	農政部会	6 月 26 日 ～ 7 月 27 日	8 月 18 日	
9 月	農地部会	7 月 22 日 ～ 8 月 20 日	9 月 10 日	
	農政部会	7 月 28 日 ～ 8 月 25 日	9 月 15 日	
10 月	農地部会	8 月 21 日 ～ 9 月 24 日	10 月 14 日	
	農政部会	8 月 26 日 ～ 9 月 25 日	10 月 16 日	

○農地部会で審議する主な申請
・農地法第 3 条（耕作目的の売買・貸借）の許可申請
・農地法第 4 条及び第 5 条（農地転用）の許可申請
・農地法第 18 条（小作の解約）の許可申請
・農地法に基づく許可の取消願／競売参加に関する買受適格者証明 など

○農政部会で審議する主な申請
・相続税及び贈与税納税猶予に関する適格者証明 など

注 市街化区域内の農地転用の届出や、相続税納税猶予に係る「引き続き農業経営を行っている旨の証明（3 年毎証明）」など、各部会での報告案件は、随時受付しています。

お忘れないように!!

◆「農業委員会委員選挙人名簿」登載申請について◆

農家の代表者である農業委員の選挙は、地域と農業者の信頼に応える農業委員会制度の基礎であり、選挙人名簿は農業委員を選出する選挙人を確定するために大変重要なものです。

選挙人名簿は、申請に基づいて作成されますので、次の要件全てに該当する方は、漏れなく申請手続きをお願いいたします。

1 名簿登載の要件

- (1) 京都市内に住所がある方
- (2) 年齢が満 20 歳以上の方（※今回は、平成 7 年 4 月 1 日以前に生まれた方）
- (3) 10 アール以上の農地で農業経営を行う方（同居の親族、配偶者で年間おおむね 60 日以上耕作を行う方を含む）

2 書類作成の基準日

平成 27 年 1 月 1 日

3 提出期限

平成 27 年 1 月 10 日まで（必着）

4 提出先

京都市農業委員会又は、京都市農業委員会京北窓口

※お問い合わせはこちらへ

○京都市選挙管理委員会（☎ 241-9250）

○京都市農業委員会（☎ 212-9050）

収穫の秋！にぎわいの秋！

京北山国さきがけフェスタ!!

～ 今再び さきがけの心で 豊かな町づくり ～

10 月 12 日（日）、台風の影響が心配されましたが、第 19 回の山国さきがけフェスタが開催されました。山国の豊かな自然、すぐれた歴史・伝統を活かし、ふるさとを共有する「むらとまちの人々」が、力を合わせて地域の活性化を図ることを目的に開催されているフェスタ！今年のテーマは「今再び さきがけの心で 豊かな町づくり」でした。京都三大祭りのひとつ時代祭において、その特有の鼓笛のしらべで武者行列の先頭を行く維新勤皇隊は、右京区京北山国が発祥の地。山国神社の還幸祭と合せて開催されるこのフェスタは、恒例の御神輿渡御・維新勤皇山国隊行進とともに祭りを一層盛り上げます。

満開のコスモスのおもてなし



美味しい枝豆詰め放題！



会場となった山国神社の参道周辺では、山国神社における神事はもとより、山国の歴史や自然、生活に関する展示をはじめ、子供たちが楽しめる昔の遊び紹介やクイズコーナーが設けられるとともに、ふるさと鍋など地元の食材をたっぷり使った食べ物の屋台などで賑わい、地域ぐるみでのフェスタが運営されています。

また、フェスタに訪れる人々を迎えるために植え付けられたコスモスの摘み取り体験や黒枝豆の収穫・袋詰め（詰め放題！）体験などユニークな催しに来場者からたくさんの笑顔がこぼれていました。

レッツ☆スマイル！レッツ☆トライ！ 食育in農林秋まつり2014

11 月 8 日（土）に西京区大原野で開催された京の農林秋まつりに京都市農業委員会も参加しました。当日は、女性農業委員を中心に、農業委員が栽培したサツマイモを使った「大学いも」づくりの体験コーナーを設けました。この取組は、食育活動の一環として、子供たちにお菓子づくりの体験を通して野菜や京都市の農業に興味と関心を持ってもらおうと始めたものです。

農業委員が栽培した大根を使ったおでんも好評でした



サツマイモと砂糖をしっかりと絡めてね



できたてアツアツ！おいしそう！

会場では、100 名を超える子供たちが「大学いも」づくりを体験しました。ぎこちない手つきながらも、みんな楽しそうにサツマイモの色が変わっていく様子や、美味しそうな香りに目を輝かせ、出来上がった大学いもを嬉しそうに頬張る姿が印象的でした。

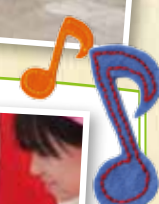
堂々！
維新勤皇山国隊



男たちの掛け声が響きます



にぎわうイベント・直売コーナー



ずいきまつり
北野天満宮 瑞饋祭 (10月1日～5日)
技術の伝承!! 祭を支える「ひと」と「技」!!



赤と緑のズイキは屋根に。千日紅の花は屋根から下にのびる赤い柱。千木、鳥居など各所の麦わら細工が黄金に光る。四方の角に飾られる瓊瑤は赤ナス、九条ねぎの種などで出来ている(京都・北野天満宮・瑞饋神輿略記より)

瑞饋祭は、平安時代、西之京神人(じにん)が五穀豊穡を感謝し、新穀・野菜などを菅原道真公の神前にお供えしたのが始まりといわれ、豊臣秀頼が北野天満宮を再興した頃に、めでたいしるしをおくるという意味を持つ「瑞饋」の音韻にちなみ「ずいき」で屋根を葺くようになったという。

完成間近
会員の力作が欄間に飾られます

祭の前日、早朝に収穫された赤・緑各300本程のずいきを用いて、西之京瑞饋神輿保存会の会員が手際よく神輿の屋根を葺いていきます。材料は「なま物」、行幸までの乾燥を考えながらの作業に、皆が声を掛け合います。瓊瑤などの飾りや、欄間や桂馬も様々な種やトウモロコシの皮などを用い、毎年異なるテーマで趣向を凝らして作られています。その製作には、1ヶ月ほど要するそうです。



屋根を彩る赤・緑のずいき



手際よく屋根が葺かれていきます



美しく飾られた神輿のお披露目です



上: しめ縄
下: 蠟芯で模様付けられた枡形



麦わらの皮に彫られた龍が金色に輝きます

昨今の異常気象は、神輿の材料となる農作物の質に大きく影響し、また、農地と農家が減少する中、材料自体の確保に苦慮されているそうです。

現在、西之京瑞饋神輿保存会会長を務める、JA 京都市朱雀野支部の佐伯支部長は「農家の協力だけでなく、麦わら細工や蠟芯を染めて作った枡形の模様は、友禅の型彫職人の技や、染色職人の協力が活かされています。街の人たちの技と力で支えている祭りなんです。」とお話してくださいました。

京都・北野天満宮・瑞饋神輿略記が、最後「なま物は土に還る」としめくくられているように、次の年、また新たに生まれ変わった「なま物」が街の人たちの技と力で美しく神輿を飾ることでしょう。

所在地: 京都市中京区寺町通御池下る下本能寺前町522 本能寺文化会館2階
TEL: 075 (212) 9050, FAX: 075 (212) 9084
京北窓口/所在地: 京都市右京区京北周山町上寺田1-1 京北合同庁舎1階
TEL: 075 (852) 1825, FAX: 075 (852) 1827
ホームページアドレス
<http://www.city.kyoto.lg.jp/menu2/category/32-11-0-0-0-0-0-0-0-0-0-0.html>

農地ことは
農業委員会へ!

京都市 第31号 農委だより

左から和美さん(妻)、孝史さん、弥一郎さん(父)、幸子さん(母)、篤人さん(義兄)、香さん(姉)



がんばっている農業者

西京区大枝 千弥農園

松木孝史さん(42歳)

西京区大枝地域で観光農園を運営されている松木孝史さん。現在、柿園1町5反のほか、ぶどう、たけのこなどを栽培されており、繁忙期にはたくさんの来園者で賑わい、両親、姉夫婦とともに、まさに家族総出で接客に追われるそうです。千弥農園で栽培部門を担う孝史さんは、柿のほか、ぶどう栽培も専属的に取り組まれ、日々、多様化する消費者ニーズを見据えた品種選定や更新を心掛けているとのこと。

大枝の富有柿は、他の産地と比べて糖度がとても高く、20度を超えることもあるそうで、「土づくり」、「栽培技術」そして「気候風土」の結果ではないかと話されていました。また、色々な人に観光農園を楽しんで欲しいという想いから、農園の随所にバリアフリー化や来園者が快適に過ごせる工夫がなされており、「おもてなし」、「気配り」の精神を感じました。

福祉施設や保育園などの来園も増加傾向にあるそうで、今後も観光農園を通じた農業の魅力発信や、老若男女を問わない農業のファンづくりに期待いたします。

(取材委員: 清水編集委員)



収穫した柿を選別作業中の孝史さん 今や作業効率アップに欠かせない選別機



孝史さんと清水編集委員

もくじ

- * がんばっている農業者 (松木孝史さん 西京区大枝) 1
- * 委員会の掲示板 (選挙人名簿登載申請 ほか) 2
- * 収穫の秋! にぎわいの秋! 山国さきがけフェスタ (右京区京北), 食育 in 京の農林秋まつり 3
- * 祭を支える「ひと」と「技」 (西之京瑞饋神輿保存会 中京区) 4